

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：片平 勇紀 所属：新宿区立新宿養護学校 記録日：2021年 2月26日
キーワード：好きな事を生かした活動 進路指導 遠隔での行事参加

【対象児の情報】

○学年 中学3年

○困難の内容

- ・同世代とのコミュニケーションに不安を覚えるため、その経験が少ない。
- ・教員の訪問による授業形態のため、関わる教員が限定的になってしまう。
- ・学校での経験が少ないことから、卒業後の進路の具体的なイメージを抱けていない。

【活動目標】

- A 他の教員や同年代とのコミュニケーションに慣れる。
- B 実験・実習を伴う授業や実技教科の専科の教員による授業を受け、興味関心を広げる。
- C 卒業後の生活のイメージをもち主体的な進路選択を行う。

【活動を実施した期間】 令和2年6月～令和3年2月

【活動の実施者】 片平 勇紀

【実施者と対象児との関係】 対象生徒の担任

【活動内容と対象児の変化】

対象児の事前の状況

A コミュニケーションについて

- ・学校への登校や同年代とのコミュニケーションについては強い抵抗感があり、直接の対話の経験はほとんど無い。
- ・LINEなどを用いてのコミュニケーションの経験は少ない。
- ・嬉しい気持ちを伝えるときに、ぬいぐるみを用いた動作やイラストで伝えることがある。

B 学習について

- ・1日2時間の授業を週に4回、自宅に教員が訪問して行なっている。
- ・自宅での訪問による指導のため、実験・実習を伴う授業や実技教科の専科の教員による授業を受ける機会が少ない。
- ・漢字や文章を書く事については徐々に改善が見られるが学年相応の滑らかさには至っていない。

C 進路について

- ・卒業後の進路については、進路に対しての具体的なイメージを抱けていない。

【活動の具体的内容と生徒の事後の変化】

A 他の教員や同年代とのコミュニケーションに慣れる。

By-Talk での教員とのやりとり

→メッセージアプリでの他者とのやりとりに慣れるために、担任を中心に By-Talk を用いて自然なやりとりができるようにする。



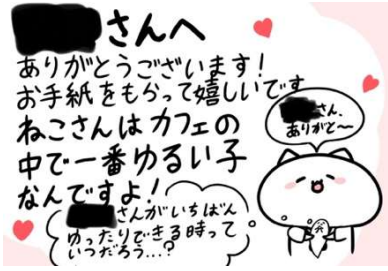
手紙や製作物を通した同級生とのやりとり

→授業で製作した製作物の感想のやりとりを通して、段階的に同級生とのやりとりの経験を積む。

Line スタンプ作り

→得意なイラストを書く事を生かして、他者とのコミュニケーションのきっかけとする。

→製作物を通して他者からの評価を得ることで、自己肯定感をもてるようにする。

ねらい	活動内容	対象児の変化
<p>メッセージアプリでのやりとりに慣れる</p>	<p>By-Talk での教員とのやりとり 授業の前日から2日前に前に授業内容や予習しておくの良い所などを By-Talk で担任から連絡を受ける。</p>  <p>1 学期 授業の連絡、進路指導で使用 2 学期～3 学期 授業の連絡や課題の進捗確認、進路指導、作文の指導で使用</p>	<p>○テキストでのやりとりに慣れていく。 使用当初は表現の固さがあったが、教員がスタンプの使用をするとスタンプや顔文字を使ってやりとりをするようになった。徐々に表現もくだけすぎることがなく敬体でやりとりができていった。</p> 
<p>他者（同年代）とのコミュニケーションに慣れる</p>	<p>手紙や製作物を通した同級生とのやりとり 同年代の本校中学部に通う生徒 A との交流を行った。</p> <p>1 学期 作品の感想に対する返事の手紙を書く</p>  <p>2 学期 国語の俳句の作品の感想をもらう</p>	<p>○同級生とやりとりを楽しむことができた。 彼女が昨年度作った絵本の感想を書いてくれた生徒に対して、返事を書く活動を行った。 彼女が使っている iPad で手紙を書き、初めて同学年の他者に対して手紙を書く経験をした。手紙をもらえた事に対して、教員から「どんな気持ち？」と聞かれ「嬉しい気持ちがある。」という感想をもった。 その後の活動でも、緊張した様子はなく返事を書いたり、ビデオを嬉しそうに見る姿が見られた。</p>

3 学期
中学部と合同の卒業制作にとりくむ

得意を生かした活動で他者（教員）とのコミュニケーションに慣れる

Line スタンプ作り
生徒が得意なイラストを描くことを生かして、ラインスタンプ作りを行った。

①アンケート作成



②アンケート集計

Keynote を使用してアンケートを集計した。



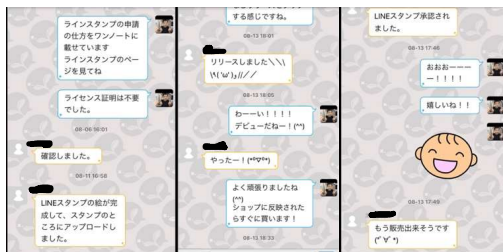
③ラインスタンプ作成

Apple Pencil と Procreate を使用した。



③有料で販売するための申請

Line creators Market で申請を行った。

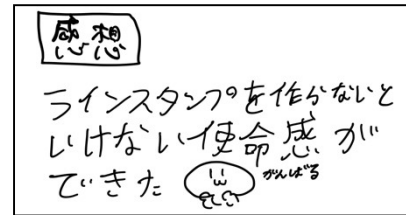


④販売



○得意なことを生かして誰かのために作ることで、意欲的に。

ラインスタンプを作成するにあたり、学校の教員を対象にアンケートを作成した。候補となるスケッチを 40 案ほど作成しアンケートを実施した。教員からのメッセージに「使命感ができた」という感想をもった。



その後、運動会のポスターを作成したときに担当の教員に自分のラインスタンプの広告を入れるお願いを By-Talk ですることができた。



B 実験・実習を伴う授業や実技教科の専科の教員による授業を受け、興味関心を広げる。

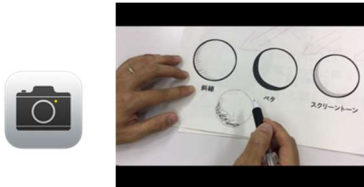




美術の教員との授業

→好きな美術の授業において専科の教員からアドバイスをうけることで美術の興味関心の拡大をはかる。

また、普段関わりのない教員とのやりとりの経験を積む。

美術館や施設へのオンライン校外学習

→対象児が参加できるようにオンラインで美術館や施設への校外学習を行い、他者とのやりとりの経験を積むことや興味関心の拡大をはかる。

ねらい	活動内容	対象児の変化
<p>美術の興味関心を広げる。</p>	<p>美術の教員との授業</p> <p>①美術科の教員と動画のやりとりを通して、動画で絵画のアドバイスを受ける。</p> <p>iPad のカメラアプリを使用</p>  <p>②お礼のメッセージカードの作成</p> <p>Apple Pencil と Procreate を使用。</p> 	<p>○学んだことを生かして感謝を伝えることができた。</p> <p>もっと練習します。という前向きな記述がある。</p>  <p>動画をみて学んだ技法を自分の絵に生かしている。</p>
<p>校外学習に参加して、興味・関心を広げる。</p>	<p>美術館や施設へのオンライン校外学習</p> <p>zoom をもちいて美術館へのオンライン校外学習を3回実施。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として、どのような美術品があるか、作者について、をパンフレットとウェブで調べた。 ・オンライン校外学習当日 ・事後学習として、感想アンケートを記入。 	<p>初めて学級全体の行事にリアルタイムで参加することができ、参加の仕方も変化。</p> <p>2学期の校外学習の参加形態に不安がある様子であったため、音声と顔出しは必ずしなくてもよいと伝えると「参加します」と答えた。当日は顔出しをせずに参加。教員を通して、学芸員に質問をする事ができた。事後の感想として、実際にまた行ってみたいという感想をもった。</p> <p>3学期の美術館見学では顔出しをして、学芸員に直接自分の言葉で美術品の運び方や仕事の内容について質問をすることができた。</p>

C 卒業後の生活のイメージをもち主体的な進路選択を行う。

ノート共有アプリで情報を共有

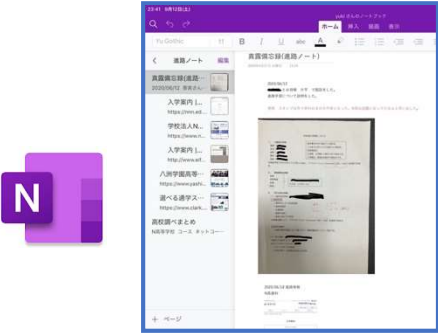


→高校の情報や三者面談の記録をノート共有アプリを用いて、対象児と担任と保護者で共有しながら進路学習を行うことにより、進路選択ができるようにする。



オープンキャンパスに参加する

→オープンキャンパスに参加することで、卒後の学校生活のイメージがもてるようにする。

アプリケーションを用いて作文を作成する。

→アプリケーションを用いた作文を通して、文章を書くことの苦手さを補い、書く事をサポートする手段を身につける。

ねらい	活動内容	対象児の変化
<p>様々な高校について知り、いくつかの高校にしぼる。</p>	<p>ノート共有アプリで情報を共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回三者面談を実施。 ・興味がある高校の情報やその他の高校についての情報、三者面談の記録をOneNoteを用いて共有した。 ・特に興味がある高校については、調べ学習をOneNoteで行った。 	<p>自分にあった高校を絞ることができた。</p> <p>年度当初は進路選択に対して具体的にイメージできていない状態であったが、三者面談をしていく中で、スクーリングの回数と自分に興味あることを軸に3つの高校に絞ることができた。</p>
<p>学校生活のイメージをもつ。</p>	<p>オープンキャンパスに参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるA高校のオープンキャンパスの参加を促した。 <p>次に興味のあるB高校の学校見学を行った。</p>   <ul style="list-style-type: none"> ・教員体制をもう一名追加し、校舎に入れない時に zoom で繋げられるように 	<p>A高校のオープンキャンパスは参加できず。保護者より「申し込みの手続きの画面まで開けたんですけど、申し込みのボタンが押せなくて、泣きながらやっていたんです。」という話を聞く。</p> <p>本人話を聞いたところ、「顔出しをしないとイケないとの不安から、申し込み画面まで開けたがそこから先が進めなかった。」とのことであった。また、「どんな形だったらできそう？」聞くと、「テキストだけなら参加できるかもしれない。」言った。</p> <p>高校に入って見学と面談ができ、進路実現をすることができた。</p> <p>校舎に入る前は、とても不安そうな顔をしていたが、校舎に入り約1時間30分説明を聞く事ができた。また、初めて会う高校の先生に対して頷きながら、時に笑顔で話を聞く事が</p>

	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのことを生徒に事前に By Talk で伝える。 <p>→生徒、保護者、担任同席で高校見学と面実施できた。</p> <p>三者面談を実施</p> <p>→志望校を B 高校と決めることができた。</p>	<p>できた。それだけでなく、卒後の進路やカリキュラム、入試に関する質問を3点質問する事ができた。見学終了後は、とても安心した様子で教員とハイタッチをして喜んだ。</p> <p>C 高校に志望校として進路選択をした。入学試験としての面接が1ヵ月後に行われ、本人だけで行うことがき、志望した高校に合格することができた。</p>
<p>書くことをサポートする手段を身につける。</p>	<p>アプリケーションを用いて作文を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業回数の少なさを補うために By Talk で作文メモの指導を行った。  <ul style="list-style-type: none"> ・対面の授業で「縦式—縦書き入力」を用いて作文を作成し、清書用紙に書き写した。 	<p>苦手な作文を書き上げることができた。ことであった。これまでより短い時間で作文を書き上げた。</p> <p>「作文用紙だと間違えた時に全部消したくなるから、これだと消すのが楽でいい。」と言っていた。</p>

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

同級生や教員とのやりとりの経験と遠隔でもできるという安心感が、興味・関心や活動を拡大させ、卒後の生活のイメージを具体的にさせたのではないだろうか。

○エビデンス（具体的数値など）

活動の拡大について

	1年	2年	3年
学校行事の当日参加回数(回)	0	1	5
参加した行事と(参加の仕方)	秋以降体調を崩したため、行事には参加できず。	文化祭(VTRでの出演)	運動会 (単独でオンラインで競技に参加) 美術館見学 (同級生と同時にオンラインで参加して質問をする。) 音楽鑑賞会 (単独でオンラインで参加) 美術館見学 (同級生とオンラインで参加して質問する) 博物館見学 (同級生とオンラインで参加)

→介入後は行事への参加回数も増え、参加の仕方でも遠隔でなら同学年と一緒に参加ができ、質問などでもできるようになったことが分かる。

○その他のエピソード

進路指導の様子から

年度当初の進路面談では、「中学校や高校を卒業してからやりたいことある？」と聞くと「わからない。」と答えたり、進路とは関係のないことを面談の感想に書いたりするなどにとどまっていた。しかし、三者面談をしていくに従って、志望校を自分の状況と照らし合わせて「スクーリングの回数」と「自分の興味のある事を勉強できるか」の2つの視点から志望校を決めることができた。また、入学試験の一つである高校進学にあたって高校でやりたいことというテーマで作文を書いた際に、①大学進学を目指した勉強②資格を取りたい③学校に慣れたい、という具体的な中学卒業後のイメージをもつことができた。

年度当初の様子

1 回目の進路面談後の感想より

2020/06/12

●●●さんとお母様 片平 で面談をした。

進路学習について説明をした。

感想 スタンプは作り終われるのか不安になった。N高は話題になってたなぁと思い出した。

介入後の様子

入学試験の作文より

20
とを増やしていきたいです。

15
進学するには、学校に行かなければならないので、この高校に入って少しずつ慣れていきたいです。また、興味のあるデッサン教室にも通いたいです。」

10
頃まで学校に向かわなかったからです。その後、中学校三年生までは新宿養護学校の訪問学級にいました。そこでは先生が家に来て勉強を教えてくださいました。しかし、大学に進学するには、学校に慣れることです。理由は、

5
二つ目は、資格を取ることです。理由は絵を描くことが好きなので色彩検定などは絵でも活かせると思うからです。他にも、漢検や英検にも挑戦していきたいです。」

私が高校でやりたいことは三つあります。一つ目は、勉強をしたいです。理由は大学進学を目指しているからです。特に、数学は苦手な科目なのでたくさん勉強したいです。